



# ブラジルウチナーンチュの一年の旅路

松本 カリナ 紗登美 (ブラジル)

沖縄国際大学



沖縄は「海がきれい」、「人が親切」、「文化が鮮やか」だという話を、ブラジルウチナーンチュ社会でよく聞きます。2008年に初めて沖縄を訪れ、それは本当だと思いました。しかし、その時、嘉手納町の研修生で、嘉手納の面積の83%が米軍基地と知り、衝撃を受けました。沖縄は、いいことだけではなく、大変なこともありました。そして帰国後、「どうして沖縄についてブラジルで色々なことが知られていないか」という疑問から、沖縄をもっと知ろうと決心し、私の旅が始まりました。移民、基地問題、復帰のことを勉強しながら、ブラジル沖縄県人会と研修生県費留学生OB会のうりずんで活動してきました。

そして、2013年4月にやっと、もう一度大好きな沖縄に帰ってきました。昨日のことだと感じますが、あっという間に1年が経ちました。この間、私の最初の目的を忘れずに、他にも様々な経験をしました。多くの場所を訪れたり、たくさんの人と出会ったり、色々なことを学んだりしました。



沖縄国際大学で、科目等履修生として日本語を勉強しました。文法、作文、会話・聴解、日本事情の授業を通して、日本語が上達したと思います。この一年の中で、数えられないほど色々な経験をし、中でも印象に残ったことが3つあります。1つ目は、「ねずみの嫁入り」という私たちが授業で練習し、上演した劇で、とても面白い体験でした。2つ目は、この一年、勉強したおかげで、日本語能力試験のN2を合格しました。そして、3つ目は、初めて挑戦して、賞をもらった沖縄国際大学のスピーチコンテストです。それに、2月に「沖縄県外国人による日本語弁論大会」に出場することになりました。もっとも伝えたかったことは、戦争をもっ

と知ることの大切さでした。とても緊張しましたが、とてもいい経験でした。

沖縄国際大学でも、私の元々の目的である沖縄の歴史と基地問題の勉強も出来ました。聴講生として、国際平和学や沖縄の歴史、文化人類学、基地問題と国際関係、フェミニズム思想、沖縄文学など、前期と後期に様々な講義を受けました。大変難しかったが、いい勉強になりました。今考えると、沖縄国際大学を選んでとても良かったと思います。

そして、沖縄 NGO センターでボランティアとして通いました。6月からいくつかのイベントを手伝って、視野を広げることができたと思います。様々な人と出会い、話を聞いたりして、色々なことを考えさせられました。例えば、ガーナのカカオのイベントを通じて、フェアトレードのことで日本とガーナの関係について初めて聞きました。



常に、日本と沖縄のまだ知らない場面が見えるようになりました。

他には、いくつかのフィールドワークにも参加しました。例えば、9月に、早稲田大学の沖縄フィールドワークに参加させてもらい、南部で戦跡巡りや、辺野古、高江へも行きました。夜に、みんなで話し合いもしました。4日間、沖縄の人のみならず、日本各地の若者と一緒に過ごし、色々な意見も聞くことができました。

6月23日(慰霊の日)、大学院の友達とアルゼンチンの留学生2人と、首里の一中健児の塔や、佐喜眞美術館、嘉数高台などへ行って学習もしました。そして、11月の沖国祭のとき、学習についての展示会をしました。その時、はがきとレターセットを作って売りました。2



万円の売り上げは、戦争の時に韓国や他の国から慰安婦として連れて来られた被害者のため創設した「ナビ基金」に送りました。

この1年、何よりも戦争の勉強がメインになりました。なぜなら、ガマや戦跡が多くあるので、どこへ行っても、戦争のことを勉強する機会がたくさんありました。観光客が訪れる平和祈念公園から、あまり知られていない轟の壕まで、多数の戦跡で見学しました。本や講義の勉強に加えて、現場へ行くのはとても大事だと気がつきました。

歴史のみならず、沖縄の文化も大好きなので、琉球風車という沖国大の伝統エイサーグループに入りました。最初はティーモーイ（男手踊り）をやって、9月から締め太鼓の練習を始めました。色々な祭りやイベントで演舞ができ、非常にいい経験でした。その上、沖縄の大学生との交流もできました。

沖縄は文化が盛んです。この1年、三線、琉球舞踊、組踊りなどを見に行きました。有名な「執心鐘入」や「ペーチンの恋」というウチナー口で話す芝居を見る機会があり、素晴らしかったです。そして、座間味島で月見をしながら、沖縄県立芸術大学の演舞を見ることができ、とても感動しました。私がいまだに上手ではないですが、5年前から三線をやっています。他の県費留学生と一緒に移民の日（6月18日）とボリビア独立記念日のときに三線を弾きました。



この1年、WYUA（世界若者ウチナーンチュ連合会）にも参加しました。2012年の「第一回世界若者ウチナーンチュ大会」はブラジルで開催され、私は積極的にスタッフとして参加しました。ですので、沖縄でもその活動を続けたかったです。ミーティングや、移民フィールドワーク、交流会などに参加して、WYUAのみなさんと何回も会い、とても仲良くなりました。

留学の中で、沖縄のことを学びながら、母国のことも伝える機会がありました。伊平屋小学校や、JICA フェスティバル、日本語の授業などで、ブラジルが「治安が悪い」より、「楽しい国」と理解してもらいたかったです。一方、質問された時、自分の国なのに、今まで考えたことがなかったことがたくさんありました。

オジーとオバーの故郷で1年暮らしたことは、私にとって忘れられない経験となりました。自分のルーツはウチナーにあるので、祖先と近くにいると感じました。そして、沖縄に住んでいる親戚もいて、とても嬉しいことでした。しかし、家族と離れていた時、ブラジルで小さい従兄弟と曾オジーが亡くなって、とても辛かったです。遠くにある沖縄に来ましたが、ブラジルでいつも私の近くにいた曾オジーも、私のルーツだと気がつきました。色々考えて、私のルーツは、沖縄とブラジルにあります。それは、アイデンティティーと同じ、2つあります。私はブラジル人ウチナーンチュで、ルーツもブラジルと沖縄にあります。祖父母、つまり移民した人は、ブラジルで苦難がたくさんあったことを忘れてはいけません。私の家族の歴史はウチナーだけではなく、ブラジルでも続いています。



留学で、ブラジルと沖縄を大事にして前よりもっと好きになりました。それだからこそ、両方が繋がっていくことを願っています。私の「沖縄をもっと知る」という最初の目的に、「ブラジルで伝える」ということを加えなければなりません。それから、沖縄の人がブラジルのことも知って欲しいです。

この1年間で、学んだことがたくさんありました。人生や心の面でも、成長したと思います。色々な経験ができ、色々な人にも出会いました。これから、沖縄とブラジルが繋がり続けるため、活発に活動しようと思っています。みなさん、いっぺーにふえーでーびたん！ Muito obrigada!





## 「海を越え、言葉を越え」 沖縄にもらった宝物

ウリベ チネン クラウディア ハツミ (ペルー)

沖縄国際大学

私はペルーから来ましたウリベ クラウディアと申します。日系4世ですが、母方の家族、特におじいのおかげで、曾祖父母の故郷の魅力的な沖縄を愛しながら育ちました。沖縄で1年間留学をするのは、今まで最も重要な意義のある決断だったと思います。

私が日本に来るのはこれで3回でしたが、沖縄は初めてでした。幼いころから、大好きな沖縄の音楽や、おじいの両親についての話からイメージした沖縄を体験することだけではなく、県費留学生として沖縄の大学で日本語や沖縄の文化の勉強をする機会もあり、とても嬉しかったです。

### 沖国大の生活や活動：

沖縄国際大学では、県費留学生の5人が勉強をすることになりました。この1年間の留学を通して、中級日本語の勉強が中心になっており、沖縄や日本の文化を表現する伝統行事や芸術、芸能、現在の事情などのさまざまなものについても学んで来ました。

大学で受けていた日本語や沖縄の文化の授業では、中国や、マカオ、台湾、韓国、フランスなど、色々な国の学生と出会い、異文化的な交流がたくさんできました。そして、日本語会話の授業を取っていた学生の皆と一緒に、前期末に「ネズミの嫁入り」という劇を演じて、最高の思い出を作ったと思います。

さらに、前期に日本語の授業で学んだおかげで、後期に聴講生として、私の専門分野、考古学と関係のある授業：沖縄の考古学、沖縄の民俗、文化人類学などを受けることができました。



前期や後期にわたって、優しく教えてくれた先生方のおかげで、日本語の知識を本格的に上達することができました。その結果、12月に沖縄国際大学で行われた「留学生によるスピーチコンテスト」に参加をすることができました。そして日本語能力試験 N3 にも合格をすることができました。

沖国大で1年間の留学の主な目的は日本語の勉強でしたが、サークル活動も重要であったと思います。

大学で琉球風車という、伝統エイサーサークルの演舞を初めて見た時の感動は今でも印象に残っています。こういう伝統エイサーにすぐ興味を持ち、サークルに参加することになりました。

琉球風車に参加したおかげで、女手踊りを学びながら、沖縄の伝統的な環境を体験することができたと思います。毎回の練習やイベントで学生のメンバーと交流しながら、エイサー以外の沖縄の伝統についての詳しい話もたくさん聞きました。それに、踊りのヘーシや各曲の意味を習ったところ、少しずつ、沖縄の方言の単語も覚ええました。

1年間にわたって、色々な地域の祭りの演舞に出ることができ、その中で曾祖父母の故郷、東風平町の汗水祭りの経験は感激的でした。ペルーでは小さい頃からペルーの伝統踊りの練習に通っていた私は、演舞やコンテストに出る時、「踊りながら心を出す」という気持ちがいっしょもありました。風車でも同じで、一つずつの演舞に参加した時には、同じようにその表現の意味がくれる気持ちを感じながら踊りました。

風車のサークル活動から一言言えるのであれば「素晴らしい」だと思います。サークルの皆さんと楽しみながら、沖縄の文化を学ぶことができましたし、エイサーを踊りながら心の結を感じることもできました。とても大切な経験ができたと思います。

そしてもう1つのサークル、沖国大の剣道部にも参加しました。ペルーで通っていた剣道が沖縄でもすることができ、とても嬉しかったです。





毎週の稽古で沖国大の強い剣道を体験しました。そして、沖縄国際大学と琉球大学の練習試合に参加したり、高校生の練習を見学したりすることもでき、とてもいい勉強になりました。

この1年間、沖縄国際大学で留学することができて、大変良かったと思います。授業やサークルで出会った人々と勉強や練習をいっぱいしたり、交流をしたり、笑ったり、そして泣いたりしてとても素晴らしい思い出がたくさんできてお世話になりました。

### 県費留学生として：



6月から12月末にかけて、県費留学生の方々と一緒に色々な交流のイベントに参加しました。国の紹介や沖縄移民、異文化、ウチナーンチュのアイデンティティなどの話やワークショップが中心になりました。宜野湾に住んでいた県費留学生たちと一緒に、5月から琉球大学の留学生三線サークルに参加し始め、毎週の練習で習った曲が6月18日に行われた移民の日の交流会と、8月4日のボリビア独立記念日のイベントにグループで演奏しました。

7月にペルー沖繩協会が行った、ペルー独立記念日のイベントに県費留学生の2人がペルーの伝統踊りを紹介する機会もありました。



交流の機会と言えば、2013年のウチナージュニアースタディーツアーや、沖縄の文化を学びに来る、南米からの沖縄の各市町村の研修生たちと一緒に過ごした時間や、兵庫と沖縄県友愛キャンプ、沖縄県内で留学している学生のパーティー、JICA フェスティバルや大同窓会などがありました。



9月の後半に県費留学生全員で伊平屋島小学校に訪問をしました。今帰仁村の港から出発し、初めてフェリーで旅をしました。伊平屋で、小学校の子供達と一緒に移民についてのレクをしたり、グループに分かれて、4年から6年生の授業に自分たちの国を紹介しました。

県費留学生として活動をした中で、沖縄 NGO センターから重要な修学の機会をもらいました。ONCのおかげで、色々な交流のイベントで、沖縄の移民やそれから作られる沖縄と海外移住者の繋がりについて意識をすることができました。そして、11月にONCが行った「読谷ツアー」に参加し、現在でも残っている、過去のつらい沖縄戦の跡や米軍基地問題についてもっと理解をすることができました。



### ウチナンチュアイデンティティを高めて：

私は、ペルーの家族が家庭で沖縄の習慣が続いていることは当たり前だと思いました。ですから、私は4世なので、ウチナンチュというアイデンティティがあるかどうかあまり意識をしていませんでした。

アイデンティティというものは、もちろん、自分が作るものである。しかし、ルーツとの繋がりを尊重をすることも大切であると思います。ある日、ペルーの大学の先生から聞きました。「何かを愛するためには、それを尊重しなければならない、何かを尊重するためには、それについて知ることが必要だ」、という考え方にとっても感激しました。それから、自分のルーツをいつも尊重していた曾祖母の沖縄文化をもっと詳しく知るようになりました。



ウチナンチュ子弟留学プログラムのおかげで、2013年に初めて沖縄に来ることができ、大学で勉強をしたり、沖縄の文化をいろいろ体験したり、ルーツをもっと近く感じられるようになりました。それに、おじいの親戚と初めて出会い、どこでも家族が心から繋がっているという気持ちが強くなりました。



ペルーの沖縄県人会で活動をしていたおかげで、「いちやりばちょーで」や、「ゆいまーる」、「ヌチドゥタカラ」という素晴らしい言葉を手に入れました。この3つの言葉の意味を沖縄にいた1年間で再確認することができ、一生の大切な経験ができたと思います。

私が帰国をしたら、ペルー沖縄県人会で積極的に活動をしている若者達に、この1年間で学んでいたことやアイデンティティを高める体験の重要性を伝えたいと思います。これから、「ウチナンチュアイデンティティ」というものが国境のないアイデンティティとして考えながら頑張っていきたいと思います。

## 私のうむい（想い）

上里 ラリサ 亜沙美（ブラジル）  
名桜大学

私は2013年にブラジルから沖縄県名護市にある名桜大学で1年間勉強をしました、上里亜沙美と申します。沖縄へ来るのは3回目で、初めて来たのは母と兄と一緒に母の生まれ中城村に遊びに行き、おばさんと従姉とはじめて会えてとても嬉しかったし自分のルーツを知ることができとても良かったです。2回目は2002年に琉球舞踊の公演で踊ることができましたとても



感動しました。もっと沖縄の文化を知りたいと思い始めた頃でした。また沖縄へ来れる日を夢見て、そこで2012年に県費留学生に応募しました。新しいことにチャレンジしたいと言う思いと大好きな沖縄で日本語や文化を学んだり、自然や食料、沖縄が抱えている問題に触れたいと思い受けることに決めました。

2013年にウチナンチュ子弟留学生として4月から名桜大学内にある寮で生活を始めました。海外生活での一人暮らし、様々な初体験で不安だらけであったが、いろんな人達に

助けられながらそれを乗り越えることができ、楽しくて、とても勉強になった1年を過ごせたと思います。



沖縄に着いてすぐ講義が始まりました。前期では日本語と舞踊の勉強をしながら、寮で一緒に過ごしていた人達の文化と触れ合うことができ、それぞれの国へ行きたいと思い始めました。

### 名桜大学と寮生活

4月に名桜大学の新生たちと留学生たちと一緒に古宇利島ウォーキングをしながら、自然にかこまれて歩いてとても心が和みました。古宇利島についてたとき、あんなに素晴らしい海を見るのは初めてで本当に感動し、初めての日本人の友達もでき、留学生同士でもっと中が深まったので一生忘れない思い出になると思います。



大学では日本語と日本、沖縄文化・事情だけではなく日常生活で使う言葉、ブラジルのウチナーンチュ達がやっている行事の意味もちゃんと分かるようになりました。日本語の講義では自分の国の料理の発表もし、いろんな食と触れ合えてとても楽しかったし美味しかったです。授業中はいつも笑顔が耐えないうちにもにぎやかな時間を過ごすことができ、勉強が苦手な私でも、授業へ行くのがいつも楽しみでした。

その先生方とも交流できいろいろ学べました。大学のプログラムとして6月に沖縄県平和祈念資料館へ行きとても感動しました。戦争で亡くなられた人々へ御冥福を捧げる貴重な場所へ来ることができ心から感謝します。絶対得た気持ちは持って帰って一生忘れません。その同じ日に首里城にも行けて、沖縄の歴史についてもっと知ることができとてもよかったです。日本事情という講義ではいろんなことを学び、自分がイメージしていた日本とはちょっと違う見方を教えてくれ、いろんなことを理解できたし、考えを変えさせたきっかけとなり意見も話すことができました。

10月に行われた名桜祭で食べたこともなかった食べ物を食べられてとても良かったし、エイサー、ラテンダンス、コンテストも見られて楽しかったです。12月にはクリスマスパーティーと誕生日パーティーもかねて、留学生と日本人の友達と過ごしてとてもいい思い出を作ることができました。後期に入って、私は言語学習センターのスペイン語のワークショップに参加し同じ県費留学生や南米の留学生が楽しく、分かりやすくスペイン語や文化のことを教えてくれました。そのおかげでスペイン語スピーチ大会に出ることができました。他にも言語学習センターの勉強と言うワークショップでは日本人とパートナーを組み日本やブラジルの知識を交換しあったり、言語を勉強しました。とてもいい経験になりました。

2月には講義も終わりみんなでお別れ会をしました。悲しい、寂しかったけれど、みんなと一緒にワイワイしながら、あたたかい気持ちになりました。楽しい思い出を作りました。

寮生活ははじめ、いろんな不安、戸惑いがあったけれど、時間が過ぎて行くうちに、友達



もできとても心地よい空間に変わりました。南米だけではなく、アジアの人達と知り合い、文化や言語を交換しながら、いろんな話をしながらご飯を食べるのが習慣になりました。いろんな楽しい、嬉しいことも一緒に分け合い、辛い、苦しいことがあった時は留学生同士で助け合いながら乗り越えることができました。私はそれを感じたとき、留学はなんてすばらしい経験なのかを改めて分かり、帰っても絶対忘れないし、この経験をいろんな人に伝えたいと思います。



### 久しぶりの家族

沖縄に住んでいる叔母が迎えに来てくれ、久しぶりに従兄に会いとても嬉しかったです。叔父の誕生日パーティーでは琉球舞踊を踊りみんな喜んでくれました。お盆の時期、叔母の家で過ごし、その時沖縄ならではの盆を過ごしました。

家に行くと叔母はいつも自分で農園している島ニンジンとオクラを使った料理を出してくれ、とても美味しかったです。冬休みには日本へ旅行に行き、何年も会っていない従姉に会い、一緒に年を越しました。いろんな場所へ連れていってもらい、食べたりしたのでとてもいい1年の始まりになると思います。

### 原点の芸能祭り

子供の頃から家の近くにある沖縄県人会ビラカロン支部へ母に連れられ通っていました。そこで日本語学校で勉強をしたり、ことあるごとに沖縄県人会のイベントに参加しました。琉球舞踊、琉球國祭り太鼓もしていました。そこで掛け替えのない友にも出会い、両親にはとても感謝しています。舞踊、エイサーの原点である沖縄へ来るのは本当に夢でした。前はなんとなくやっていた芸能活動だったが今となっては楽しく、嬉しく、誇りに思います。



実際沖縄で琉球舞踊をしたり、それを見てくれる人達に元気を与えることや褒められるのがとても嬉しかったです。全島エイサーにも参加ができとてもいい経験になったし、沖縄のエイサーを生で見て感動し、「ちむどんどん」と言う言葉がすぐに思い浮かびました。

## 沖縄ゆんたく



来た時から最後まで、週末にはやんばるから糸満までいろんな観光スポットへ連れていってもらいました。美ら海水族館、オリオンビール工場、今帰仁城跡、辺戸岬、首里城、万座毛、平和祈念公園など、名護で行われる名護祭りでは初めて甚平を来て祭りへ行っていろんな美味しいものを食べました。名護の桜まつりにも行きました。ただ残念なことに一日中雨でした。でも、いろんな演舞を見れたので良かったです。

やんばるでカヌーも体験し、おどおどしていたがすぐコツをつかんだのですごく面白かったです。名護でもいろんなイベントに参加できました。一番印象に残っているのは名護でいつも行われている世界の家庭料理フェアで名護に住んでいるブラジル人のお手伝いで「sandúche de pernil」を作ったことです。いろんな国の料理を拝見し味見ができとても美味しかったです。



研修が終わるちょっと前には呉屋さん、桃原さん、森脇さんが名護に来て一緒に遊んでくれ本当にいい思い出を作ることができました。観光したり、食べたり、ゆんたくをしたり、大学では学べない様々なことをこのゆんたくでいろいろ知ることができました。



## 県費の活動

国際交流に参加し、いろんな国の人達が沖縄で勉強しているのを見て本当にびっくりしました。また、みんながすごく日本語がうまいのを見て、私ももっと頑張らないといけないと決めました。副知事に挨拶をしに行った時はとても緊張したけれど、とても快く迎えてくれたのですぐに安心したのを覚えています。6月には県庁でのパネル提示会のパネル作りは自分がこんなにも生まれた国をよく知らないと気づき、それから資料を集めてさとみと一緒に考えながらでき、いろんな人達に褒められてすごく嬉しかったです。その同じ時期に移民の日をお祝いするため県費みんなと三線と舞踊を



披露でき本当にみんなと心が繋がったと思います。夏休みには県庁が企画した兵庫・沖縄夏季友愛キャンプにも参加してとても面白かったし兵庫県が沖縄とどのような関係があるのかがわかりとても勉強になり、いろんな沖縄の観光スポットへつれていってもらいました、でも一番印象に残っているのは糸数壕（アブチラガマ）に入ったことです、中でガイドさんがどうやって人々はあの中で暮らしていたのか、なにが起こったのか詳しく話をしてくれ、鳥肌も立ち、胸も苦しく、感動し泣き始めました。以前はあまり実感がわかなかったのに、実際見て体験をしたので気持ちが前とは違うし、今の世界をあの時代のようにならないために何をすればいいのかを考えさせられました。とてもいい4日間でした。9月には伊平屋島へ行き小学校訪問で子供たちと交流を深めるため100人村というワークショップを行いその後各クラスでゲームをしながら国の紹介をしました、子供達はとてもアクティブに参加してくれ嬉しかったです。11月にはJICA フェスティバルに参加しパネルを使って、訪れた人達に自分と国の話をして盛り上がりました。本当にいい経験になったと思います。

ここで学んだことを伝えながら、自分の目標にも生かし、今後もブラジルと沖縄の懸け橋となり次に来る世代に向け自分と同じ気持ちを持ち続けてほしいので、ここでの経験を伝えたいと思います。こんな素晴らしい1年を送れたのは、家族、ブラジル沖縄県人、県庁、財団、お世話になった人達、寮のみんな、大学の教師、友達みんなのおかげです。ありがとうございました。



# 100%ウチナンチュ血のアルゼンチン人

仲松 デボラ カルラ (アルゼンチン)

名桜大学

2013年は初めて沖縄に来ました。子供の時から日本語とウチナーグチの言葉を少し分かりましたが、私の家にはあまり沖縄の文化がありませんでした。しかし、毎週土曜日に祖母の家で泊まって、寝る前におばあちゃんと沖縄についてたくさん話をしました。

2008年にブエノスアイレスを引越し、日系人の寮に住んでいましたので、日本の文化に触れることができました。

2回沖縄県費留学生のインタビューをして、最終的に2012年に私が選ばれました。

## 家族



空港で私の親族に初めて会いました。那覇市や曾祖母の33回忌には中城村へも訪れました。また、やんばるでも親族と共に過ごしました。

夏休みの間に神奈川県と群馬県へ行ってきました。家族と旅行して、またたくさん嬉しい思い出を作りました。



私と、アルゼンチンにいる私の家族は長い間、日本にいる親戚と会う機会がありませんでした。しかし、今回私が来沖したことで、沖縄にいる親戚と再会をし、また夏休みの期間を利用し、内地にいる親戚と再会し、地球の反対側にいながらもつながっていられたことをうれしく思いました。そして今後も、つながっていけると信じています。

## 沖縄、大きな輪

来沖以前は、沖縄についてあまり知りませんでした。しかし、沖縄に着てから、WYUAの存在を知りました。特に、若い年齢層のウチナンチュが熱心に活動していることを聞き、グループの活動に大変興味を持ちました。WYUAは世界にいるウチナンチュとのつながりを持っており興味深いと感じました。

4月からLLCという言語学習センターでチューターとして活動しました。英語とスペイン語を学生に教えるのと同時に、私自身は日本語を学びました。このように日本で、組織の

中の一員として仕事をするのは初めてであり、また語学を教えることも初めての経験でした。活動を行う中で、仕事だけではなく、多くの素敵な経験を得ることができ、多くの友人を得ることもでき、LLCは私にとって家族のような存在です。

それから、第2、3回スペイン語スピーチ大会を行う事が出来ました。私達の期待を超えていました。

また、私はラテンダンスサークルにも参加しました。時間が経つにつれて、ラテンダンスは南米の文化を伝達する別の方法として気づかされました。

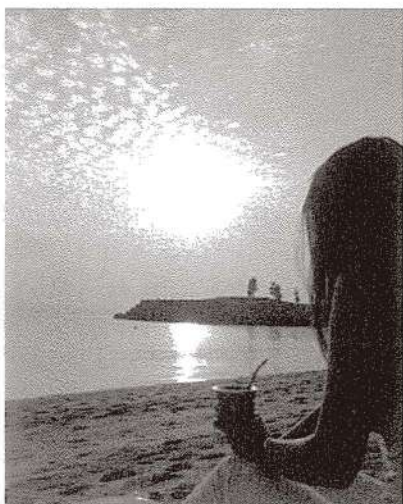


日本人の学生からは、「南米の人たちは常に心が温かい」と言われ、共に時間を過ごすことで南米に興味を持ってくれました。次年度、名桜大学の学生7名が、ブラジルとアルゼンチンに留学生として現地で勉強します。

沖縄で私は、南米の文化などを話すことで、南米について広めることができました。帰国を目前にする今、アルゼンチン帰国後は今度は、アルゼンチンで私が見てきた日本について広めていきたいと思います。

### 私達の素敵な名護市

名護で生活をはじめ感じたことは、買い物や海に行く際、少し不便を感じました。また、周りからは、「なぜ名護に住んでいるの？」や、「名護に住んでつまらないでしょ？」とも言われました。



ゴールデンウィークにはじめて名護を出て、那覇で約1週間ほどいました。当初是那覇での生活がうらやましく思え過ぎていました。しかし、2日、3日と過ぎていくなかで、海や山を毎日見ていた名護での生活、そして常に開け放たれた部屋から見える朝日の景色が恋しくなりました。

那覇のように名護よりもより都会で何でも物が揃ったり、ビルの中で生活するような生活もありますが、名護では正反対の生活と言っても過言ではありませんでした。しかしその中で、常に私の横には多くの友達がいてくれ、その友達と過

ごすことで、なにげない毎日を共に送ることで目には見えない、お金では買えない心に響く生活を名護で送ることができました。



恵まれたことに、沖縄での家族や友人が沖縄中を連れて行ってくれました。沖縄のさまざまな場所を見て歩き、目で見て、肌で感じ、今思うことは、周りからは名護での生活を批判されたこともありますが、今、私は名護に来て、名護で一年間を過ごせたことに悔いはなく、それ以上に喜びを感じています。

### 名桜エイサー

4月からエイサーの練習を始め、練習に参加する度に、エイサーから沖縄の文化を感じることができました。2014年1月名護桜祭りに参加することができました。その日は本当にきつかった。しかし皆と一生懸命踊ったり、声を出したり、とても良いエイサーの公演を出来ました。



### 授業

日本語、英語、翻訳、議論と日本事情を受けました。日本事情の李先生は、その日のテーマをみんなが理解出来るように何度も教えてくれました。誰も理解していなかった場合は、先生は簡単な言葉で再度説明してくれました。私達は李先生の授業を通して世界中の文化を学び、楽しい思い出を持っています。

### 架け橋になりたい！

一年間、他の県費留学生や、担当者と活動する中で、過ごした時間は多くはありませんが、活動を通じて充実した時間を過ごすことができたことを嬉しく思います。

帰国した際には、私が沖縄で経験したすばらしい経験やこの気持ち、沖縄の良さ今度は母国アルゼンチンで伝えていきたいと思います。

来沖以前は、一年間という期間の留学は長いものだと思っていました。しかし、いざはじめてみると時間が経つのは早く、今日まであっという間でした。

なぜだか言い表すことができませんが、沖縄に着いたその日からこの生活にすんなり溶け込むことができ、とても嬉しく思っています。

最後に、日系人として、さらに、ウチンチューとしていただけることをとても嬉しく思います。さらに、この気持ちを今後、母国アルゼンチンの日系社会の発展に貢献できたらと思います。アルゼンチンでは、日系人とはなにか、沖縄文化や日本文化について、また日系人でありながらもルーツを知らない人などが大勢います。今、この一年間で得ることのできた経験を最大限に生かし、アルゼンチンと沖縄の架け橋になれるように、努力していきたいと思います。

¡Muchísimas gracias!

# 1年間、毎日沖縄が幸福にしました。

上原 カレン マリアナ (アルゼンチン)

名桜大学

私は上原カレンと申します。アルゼンチンからの県費留学生です。

子供の頃、お父さんが沖縄について色々な話をしてくれました。家族の集まりにも皆で楽しみ話しました。それで、私の出身地ロサリオと言う町で日本人会の活動に積極的に参加し、エイサーと踊りも練習しました。さらに日本語も勉強しました。しかし、高校生の時に、忙しかったので、その活動に参加できませんでした。また日本語能力を向上していると感じられませんでしたから、日系の生活から離れていました。

けれども5年前、家族のおかげで初めて沖縄に来ることができました。その時は、いとこと私、二人だけでまだ会ったことがなかった親戚に会いにきました。4日間しかなかったですが、一番楽しかったですし、沖縄の魅力を感じたので、家族の故郷に関することをもっと知りたくなりました。しかし、そんなに深く理解することができませんでした。空港で親戚にバイバイしたときに、涙がおばあさんの顔をつたいましたし、私も泣き始めて、「絶対また沖縄に帰るよ！泣かないで、待っててね！」と言いました。その時からずっといつか沖縄に帰ることを強く望んでいました。

それをきっかけに、一生懸命日本語の勉強を続けました。そのおかげで、だんだんと興味が増え、勉強も楽しみになりました。3年前のある日、県費留学生の説明で沖縄留学の経験を聞きました。「これは私がやりたかったことにぴったり」と思って、すぐに応募することにしました。一回目、せっかくブエノスアイレスまで面接をしに行ったのですが、自分は選ばれなかったです。あきらめないうちに、次にも応募しました。今回は成功でした。ついに、私の夢が叶う扉が開きました。

## 名桜大学

大学で留学生用の日本語の授業と英語の授業を受けました。色々学ぶことができました。英語の科目は日本人の学生のためでしたから、日本人と話して、いい練習になりました。しかし、言語の勉強だけでなく、日本事情と言う科目で日本社会と日本の考え方を理解するために、先生は様々な説明をしてくれました。すごく勉強になりました。この授業は日本人と留学生がいました。

先生は交流が一番大切だと考えているので、日本人の学生にも質問をするように動機づけました。ですから、活動的な授業になりました。一番好きな科目でした。その上、スペイン語の授業でも先生を手伝いました。



さらに、大学の言語学習センター（LLC）でチューターとして働き始めました。LLCとは、言語に興味がある学生に対してサポートや活動をするセンターです。英語とスペイン語を教えながら、他のチューターや先生との交流のおかげで自分の日本語力を向上させることができました。雰囲気はすごくよかったですので、皆とも仲良くできました。

その上、去年の県費留学生在が始めたスペイン語のスピーチ大会もワークショップとして開催しました。この一年間に2回行いました。わくわくしながら、スペイン語の練習だけではなく南米の紹介もしました。多くの参加者に南米の関心が増えてきたので、本当に喜んでもらいました。それで、アルゼンチンについて説明をする機会もあって、本当に良かったと思います。

それから、ラテンダンスのサークルにも参加し、いろいろなイベントで踊りました。



### 名桜エイサー

私にとって、日本語を上達するためには日本人との交流が一番大切だと思っていました。ですから、サークルにも参加したかったです。沖縄に来る前に、一番やりたかったことはエイサーでした。沖縄に来た最初の週で、偶然に、太鼓の音が聞こえてきました。考えずに、

皆とその音がした所に行きました。名桜エイサーの練習でした。名桜エイサーの人達は上手に踊っていたし、ヘーシも大きな声で出していたし、初めてこんなふうに鳥肌が立ちました。絶対私もそんなふうになれたかったので、その日から沖縄でエイサーの練習をやり始めました。どんどん練習が厳しくなりましたが、大好きだからあきらめなかったです。それと同時に、出演できるか判断するテストも受けないといけなかったです。授業とLLCで忙しかったので、時々練習に行けませんでした。テストの日に変な緊張して、先輩とOBの前で踊りました。残念ながら、ぎりぎり合格できませんでした。その時に夏休みに入りました。授業が始まった時、5ヶ月ぶりの練習を始め、もう一回テストに合格するために、熱心に練習しました。名護の桜祭りで踊ることが目標でしたから、毎日それを楽しみに練習しました。少し忘れていましたが、皆がとっても優しくいつも助けてくれました。とうとう沖縄市でやったテストでは合格できました。大変嬉しかったです。桜祭りでは、1時から5時まで踊りました。雨が降ったからつらかったけど、とても満足しました。それで、名桜エイサーの皆と仲よくなったので多くの思い出と友達も作れました。みんなの事を忘れません。



## 家族

もう一回親戚に会えて、それは一番素晴らしい思い出でした。5年前より、もっとコミュニケーションをできたから、嬉しかったです。やはり皆はうちな一んちゅの心を持っているので、みんなで明るくいつも笑顔で遊びに行きました。お父さんと3人のおじさん達の子供のときの話をしたので、帰ったらぜひ皆にそれを伝えてあげたいです。最近、お父さんと沖縄の話あまりしていませんでしたが、帰ったら沖縄の親戚との再会をきっかけに、お父さんからもっとその子供の頃の話の続けてもらいたいです。

それから、初めてお母さんの親戚とも会えました。アルゼンチンに移民した私のおばあちゃんは沖縄の話あまりしなかったです。5年前に、あいにく亡くなりましたのでそれを後悔

したけれども、おばあちゃんの家族と会って、色々な話をしあげました。本当に喜んでもらいました。この経験からアルゼンチンの家族と沖縄の家族が繋がっています。



### 県費について

最後に、県費の活動として南米ウチナーンチュの紹介をしました。様々なイベントに参加し、自分のルーツも発見できました。JICA フェスタ、伊平屋の小学校訪問、WYUA の交流会。この活動のおかげで、自分のアイデンティティーの誇りが強くなって来ました。それで WYUA の存在を知ることができたので、帰国したら、この繋がりをもっと大切にしたいです。この団体は一生懸命に様々な活動やイベントを開催しているので、私は皆を尊敬しています。

さらに、二人の担当者に感謝しています。いつも笑顔で皆の面倒を見てくれたので、楽しく過ごせました。担当者と言う役割ですが、この一年間友達のようにお世話になりました。それだけではなく、皆と遊びに行く機会もあって、大変楽しかったです。県費留学生達は皆本当にラッキーですよ！

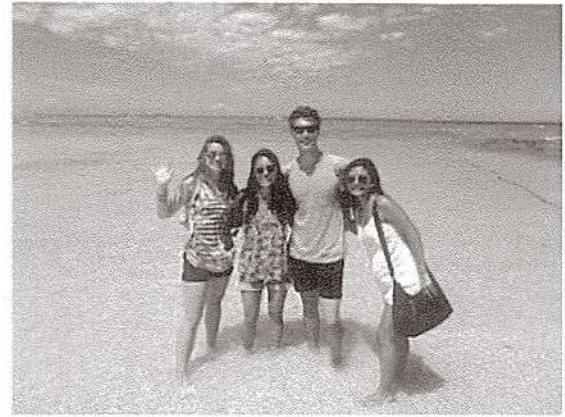
また会える日を楽しみに待っています。



### 名護の生活

名護に着いた時、印象に残った事は素晴らしいビーチと豊かな自然でした。その時から、いつもその景色を見たら落ち着くことができました。最初からすぐに沖縄の生活に慣れることができました。買い物をするのが不便でしたが、いつも友達が助けてくれました。





名桜大学の寮では、多くの友達を作りました。沖縄に来る前に、アジアで日本以外の友達を作れると思っていませんでしたが、現在タイと台湾と韓国の友達もいます。それぞれの国のイメージが前と大きく変わり、いつも食事の時に交流もできて、その国々の魅力を発見しました。タイ人の優しさ、日本人の熱心、イギリス人のパーティ、台湾人の手助け、ペルー人の冗談、ブラジル人の楽しさ。毎日、文化と習慣の勉強になりました。とても皆との思い出が心に残っています。

### 沖縄の魅力

単純なことを大切にしたいです。子供の笑顔、タクシーのおじいさんのゆんたく、北部の美ら海、空の夕焼け、三線の音、エイサーのパワー、やんばるの自然、おばあちゃんの「かめーかめー」攻撃、お店の人の優しさ、おばあさんの話、かりゆし58の曲、桜の色、皆でカチャーシー。これからアルゼンチンでも沖縄の魅力を思い出したら、笑顔になるはずです。

この一年間でお父さんとおじーとおばちゃんの沖縄を肌で感じることができました。一生皆さんの事を絶対忘れません。皆さんのおかげで私の夢が叶いました。この体験の思い出を胸に抱きアルゼンチンで進みたいと思います。皆さんに感謝しています。

JICA 国際協力・交流フェスティバル (平成 25 年 11 月 9 日・10 日)



各国パネル展示模様①



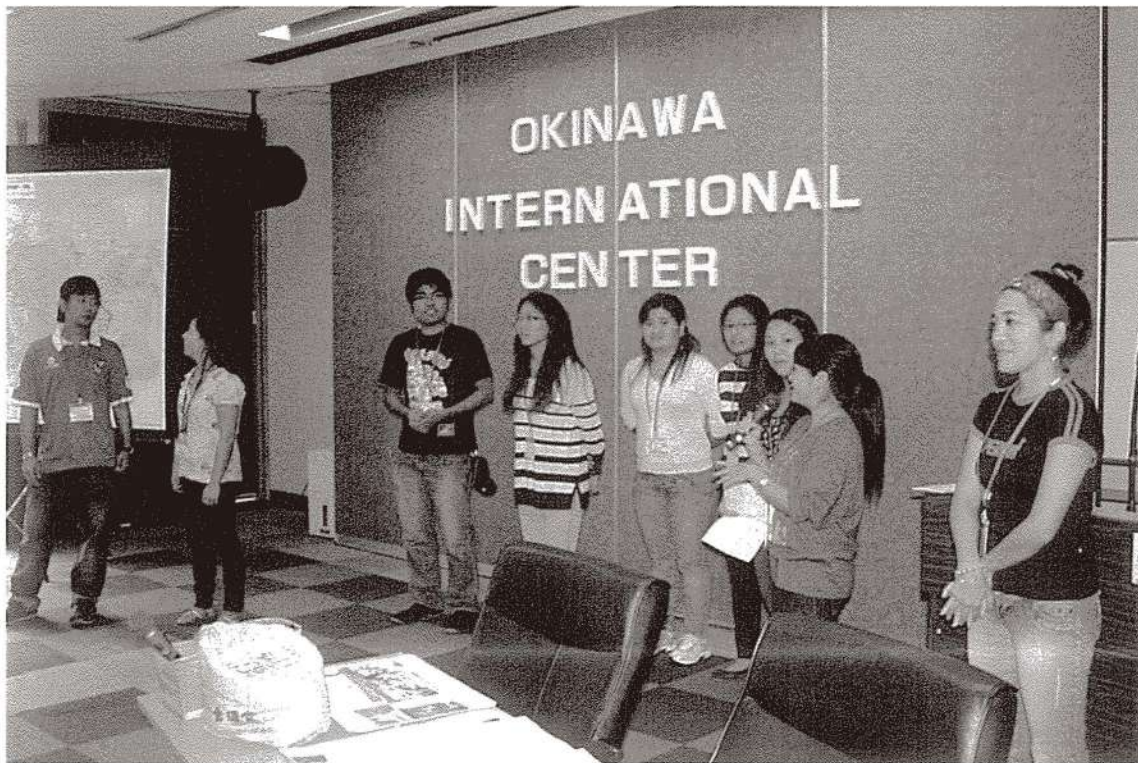
各国パネル展示模様②



各国パネル展示模様③



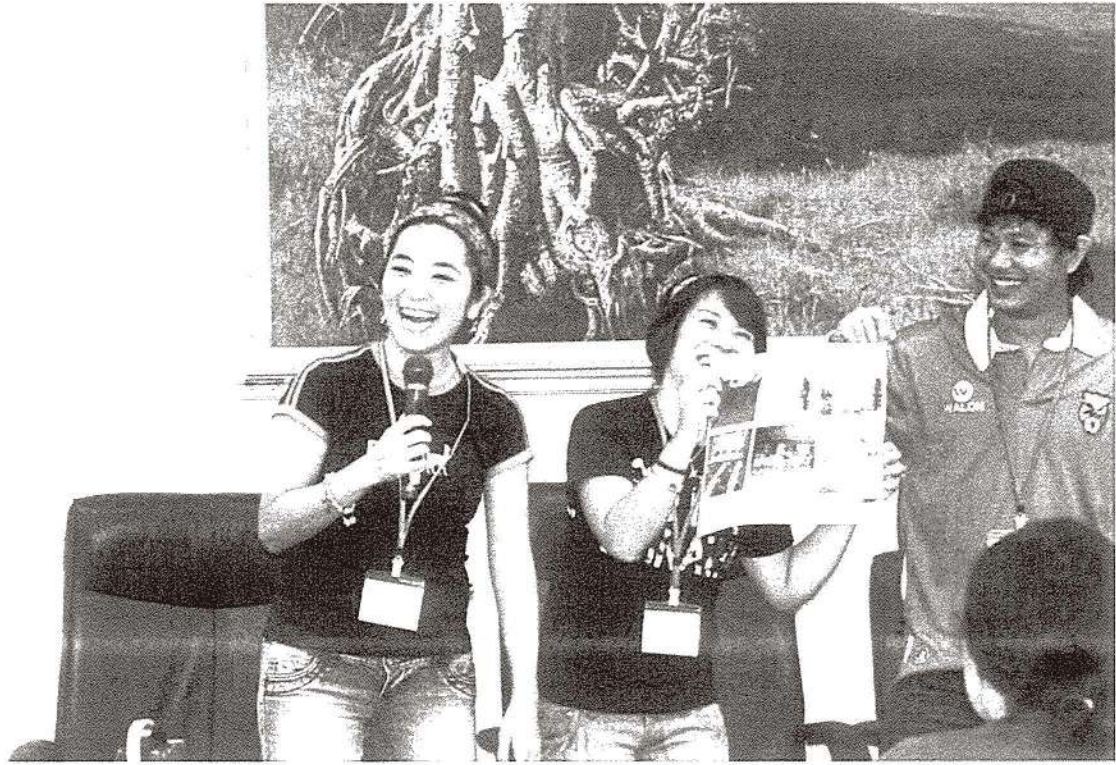
各国パネル展地模様①



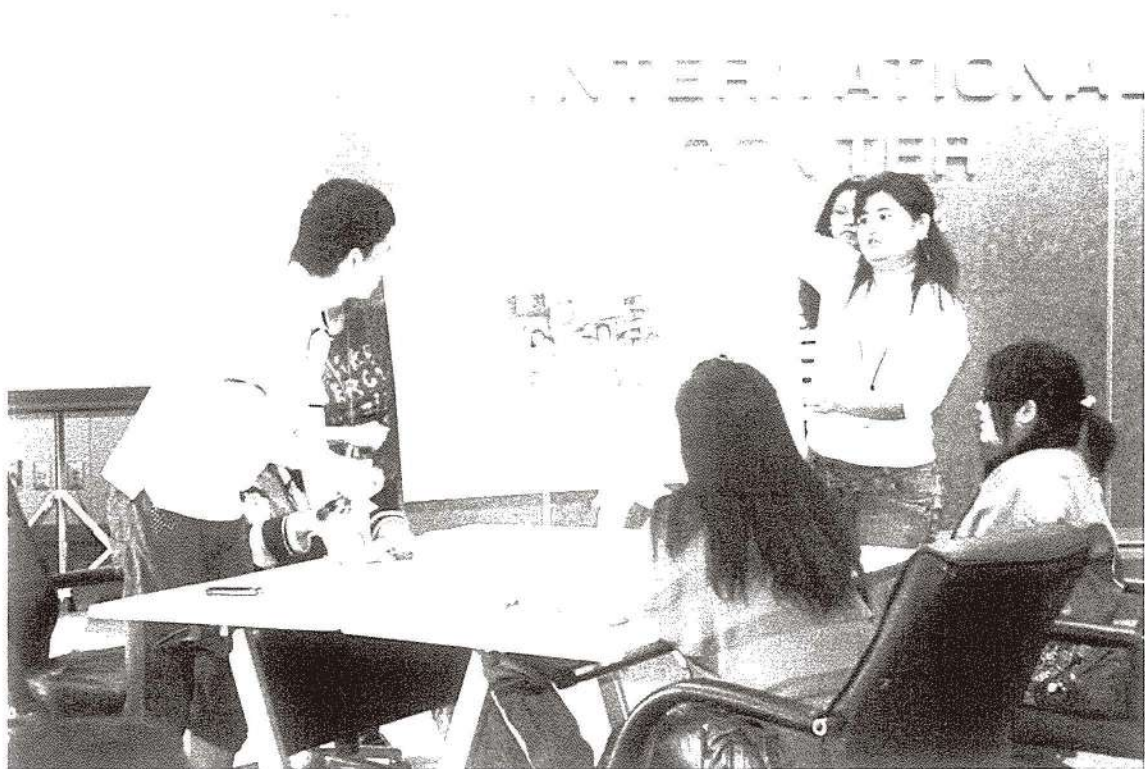
海を渡ったウチナンチュ (ワークショップ) ①



海を渡ったウチナンチュ (ワークショップ) ②



海を渡ったウチナーンチュ (ワークショップ) ③



海を渡ったウチナーンチュ (ワークショップ) ④



海を渡ったウチナアンチュ (ワークショップ) ⑤

伊平屋小学校訪問（平成 25 年 9 月 27 日）



移民を学ぶワークショップ「100人村（ウチナーンチュバージョン）」①



移民を学ぶワークショップ「100人村（ウチナーンチュバージョン）」②



移民を学ぶワークショップ「100人村（ウチナーンチュバージョン）」③



移民を学ぶワークショップ「100人村（ウチナーンチュバージョン）」④





移民を学ぶワークショップ「100人村（ウチナーンチュバージョン）」⑤



お国紹介：各国について学ぶ・ゲーム①



お国紹介：各国について学ぶ・ゲーム②



お国紹介：各国について学ぶ・ゲーム③



野甫大橋にて



平成25年度 ウチナーンチュ子弟留学生修了報告書

発行 公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

〒901-2221

沖縄県宜野湾市伊佐四丁目2番16号

TEL: 098-942-9215

FAX: 098-942-9220

